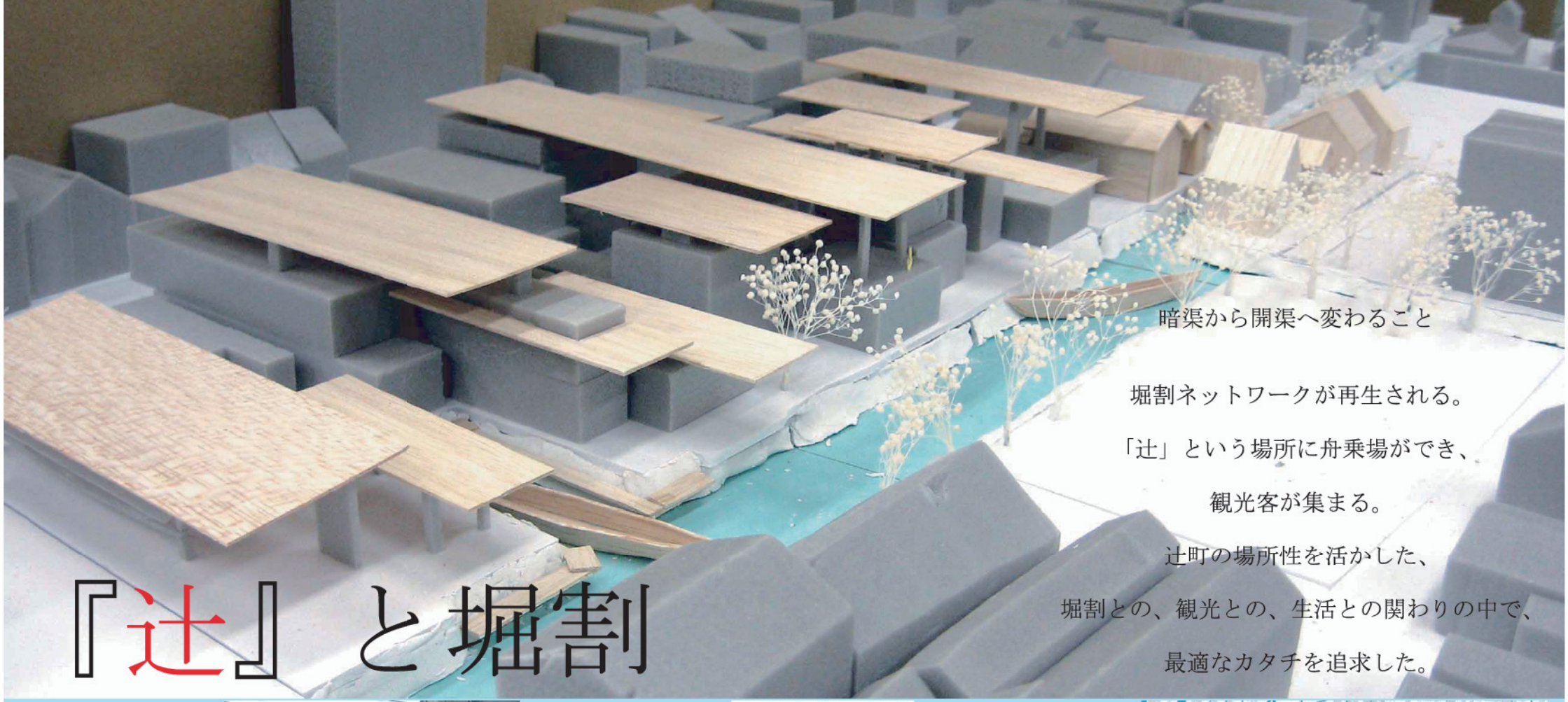

『辻』と堀割

暗渠から開渠へ変わること

堀割ネットワークが再生される。

「辻」という場所に舟乗場ができ、

観光客が集まる。

辻町の場所性を活かした、

堀割との、観光との、生活との関わりの中で、

最適なカタチを追求した。

対象敷地

対象敷地は、辻門橋付近にあるマルショクサンリブ裏の駐車場である。

この敷地は、もともと堀割の場所で、堀の上に駐車場が乗っている状態で、昭和53年7月竣工、総工事費1億1千万円かけてつくられている。昭和54年3月、完成記念碑もつくられていることから当時特別な工事であった事が伺える。

辻門橋の歴史

辻の門は江戸時代、柳川城城下町中央の検問所の門のことで、この橋の西に総汲物という公衆用の荷揚場があった。

下の絵図は、寛政三年の御家中絵図・町小路絵図・沖端町御絵図（『旧柳河藩主立花家文書』）である。辻門は、町人町（現在の柳河地区）と武家屋敷（現在の城内地区）を結ぶ重要な門であった。

（参考資料『新柳川明証図会』『柳川今昔』）

◀▲ 辻門橋

「城へ入る潮堀にして昼夜往来絶るひまなし。此所にてあらためて旅人を入ることを許す。辻の門は城下町中央の検問所の門のことである。この橋の西に総汲物という公衆用の荷揚場があった。現在の柳川市片平町昭和堂西から伝習館校庭にかけられていた。

‘辻’

『境界』

町人町と武家屋敷の境界であり、観光と生活の境界にもなりえる！？

『集まる』

昔、もの、人、情報が集まっていたが、現代でも同じ様なことがおきる。